

收賄物の價格に
新しい判例

受授當時の價に依る

大審院で判決

苦しい世帯の中

市議の大名旅行續く

連の各面に非難の聲たかく

一問題持上りう

電送寫眞で

手紙を送る

近い世帯の中

市議の大名旅行續く

故遺産は誰

日本女史

ガンデー氏

ハル氏逮捕から

大憤慨の巻

ハル氏

月にかかる

月にかかる</

紐育の同胞

獨立營業者大會

各自に活躍策を講究
有意義な企ててご見らる

年三月一日

日曜月

年二月二日

日曜月

年一月三日

日曜月

年十二月四日

日曜月

年十一月五日

日曜月

年十月六日

日曜月

年九月七日

日曜月

年八月八日

日曜月

年七月九日

日曜月

年六月十日

日曜月

年五月十一日

日曜月

年四月十二日

日曜月

年三月十三日

日曜月

年二月十四日

日曜月

年一月十五日

日曜月

年十二月十六日

日曜月

年十一月十七日

日曜月

年十月十八日

日曜月

年九月十九日

日曜月

年八月二十日

日曜月

年七月廿一日

日曜月

年六月廿二日

日曜月

年五月廿三日

日曜月

年四月廿四日

日曜月

年三月廿五日

日曜月

年二月廿六日

日曜月

年一月廿七日

日曜月

年十二月廿八日

日曜月

年十一月廿九日

日曜月

年十月廿九日

日曜月

年九月廿九日

日曜月

年八月廿九日

日曜月

年七月廿九日

日曜月

年六月廿九日

日曜月

年五月廿九日

日曜月

年四月廿九日

日曜月

年三月廿九日

日曜月

年二月廿九日

日曜月

年一月廿九日

日曜月

年十二月廿九日

日曜月

年十一月廿九日

日曜月

年十月廿九日

日曜月

年九月廿九日

日曜月

年八月廿九日

日曜月

年七月廿九日

日曜月

年六月廿九日

日曜月

年五月廿九日

日曜月

年四月廿九日

日曜月

年三月廿九日

日曜月

年二月廿九日

日曜月

年一月廿九日

日曜月

年十二月廿九日

日曜月

年十一月廿九日

日曜月

年十月廿九日

日曜月

年九月廿九日

日曜月

年八月廿九日

日曜月

年七月廿九日

日曜月

年六月廿九日

日曜月

年五月廿九日

日曜月

年四月廿九日

日曜月

年三月廿九日

日曜月

年二月廿九日

日曜月

年一月廿九日

日曜月

年十二月廿九日

日曜月

年十一月廿九日

日曜月

年十月廿九日

日曜月

年九月廿九日

日曜月

年八月廿九日

日曜月

年七月廿九日

日曜月

年六月廿九日

日曜月

年五月廿九日

日曜月

年四月廿九日

日曜月

年三月廿九日

日曜月

年二月廿九日

日曜月

年一月廿九日

日曜月

年十二月廿九日

日曜月

年十一月廿九日

日曜月

年十月廿九日

日曜月

年九月廿九日

日曜月

年八月廿九日

日曜月

年七月廿九日

日曜月

年六月廿九日

日曜月

年五月廿九日

日曜月

年四月廿九日

日曜月

年三月廿九日

日曜月

年二月廿九日

日曜月

年一月廿九日

日曜月

年十二月廿九日

日曜月

年十一月廿九日

日曜月

年十月廿九日

日曜月

年九月廿九日

日曜月

年八月廿九日

日曜月

年七月廿九日

日曜月

年六月廿九日

日曜月

年五月廿九日

日曜月

年四月廿九日

日曜月

年三月廿九日

日曜



アケシヤの花
伊勢田はつゑ

吾が明瀬浦の一週忌に奉祭す

水虫のこだくわきし花筒の水没みかへて花挿げり
石碑のめぐりに伸し草刈る草刈鉄の音はさねにつゝ
墨のそがひに高き山岩のチバベンに人動く見ゆ

いたいの子供達は異國に心狂ひて死にし人はも
心狂ひ死にける人の奥津城に花挿げべき花筒もなし

左の摺一編を北の方編に在す未知の
新井、武南氏に呈す

再び此處の墓所に吾が見つかるアケシヤの花筒にしむかも
墨のそがひに高き山岩のチバベンに人動く見ゆ

先頃狂ひて死にし某女の墓
いたいの子供達は異國に心狂ひて死にし人はも
心狂ひ死にける人の奥津城に花挿げべき花筒もなし

言をなみ墓の草刈る君が兄の側に立ちて皆歎し居り
墨のそがひに高き山岩のチバベンに人動く見ゆ

浅春往訪　羅府泊　良彦

墨のそがひに高き山岩のチバベンに人動く見ゆ

春の雑誌　桑港吉田雪山

光景　逍遙遊

文章　林田盛雄

梅毒と麻ドクを

甘いスキヤキ　草履　懐かし

彼の女は、情熱と愛情に月齢に剥離されると
春の甘い花が咲く。春の月齢に剥離されると
散らぬ間を以てやいきて花見など思ひもさげず眼を我れは
散らぬ間を以てやいきて花見など思ひもさげず眼を我れは
雨はれて及子の山の姿へはるは露みて遠く見ゆけ
山の端見わかぬほどに朝霞引ひ渡るふの長閑けり
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

静思　思せぬ子
ひこの身にはかり數へり。わかれは外而に牋席を持ちつ
女子の心は弱い。よかのからほはすまへ。貞じるを
わればばすまへ。思ふ事持つて。胸ひ空へ。時たまにり
ねんこはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるは
描かる身には思ゆる人へ。死にし天さざに受くる患思
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

明るい顔の行列が行く
この明るい顔の行列が行く

ビクニック

久にうかうか。揺ひて日暮の春の一日を山に遊ぶ
砂山の寝日櫛りに宿舎を以てるかも
うち園遊会さけそめ麗は夢のやうな手をすみせり
雛は強きのかな水無きの高原に芽をさきめり
遠み流る川の遠に鶯の下居長鳴なるかも
よなはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるは
沙の身にはばかり數へり。わかれは外而に牋席を持ちつ
女子の心は弱い。よかのからほはすまへ。貞じるを
わればばすまへ。思ふ事持つて。胸ひ空へ。時たまにり
ねんこはるはるはるはるはるはるはるはるはるは
描かる身には思ゆる人へ。死にし天さざに受くる患思
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

総てのものが明るい
総てのものが明るい

蝶組俳句五月興味「春畫」

は「春畫」の間遊びはしないが矢
かく問合せありましたが矢
張り「春畫」が正しいのです
（保）

甘いスキヤキ　草履　懐かし

彼の女は、自身の瞳がどうるやうに愛情で
恋わるのを意識すると、きまつてたまらな
く可愛い」と言ひ乍ら、彼を抱いてその顔
を纏へ身であるはるはるはるはるはるは
静かにと起きながら
この明るい顔の行列が行く

春の雨　秋江

久にうかうか。揺ひて日暮の春の一日を山に遊ぶ
砂山の寝日櫛りに宿舎を以てるかも
うち園遊会さけそめ麗は夢のやうな手をすみせり
雛は強きのかな水無きの高原に芽をさきめり
遠み流る川の遠に鶯の下居長鳴なるかも
よなはるはるはるはるはるはるはるはるは
沙の身にはばかり數へり。わかれは外而に牋席を持ちつ
女子の心は弱い。よかのからほはすまへ。貞じるを
わればばすまへ。思ふ事持つて。胸ひ空へ。時たまにり
ねんこはるはるはるはるはるはるはるはるは
描かる身には思ゆる人へ。死にし天さざに受くる患思
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

久にうかうか。揺ひて日暮の春の一日を山に遊ぶ
砂山の寝日櫛りに宿舎を以てるかも
うち園遊会さけそめ麗は夢のやうな手をすみせり
雛は強きのかな水無きの高原に芽をさきめり
遠み流る川の遠に鶯の下居長鳴なるかも
よなはるはるはるはるはるはるはるはるは
沙の身にはばかり數へり。わかれは外而に牋席を持ちつ
女子の心は弱い。よかのからほはすまへ。貞じるを
わればばすまへ。思ふ事持つて。胸ひ空へ。時たまにり
ねんこはるはるはるはるはるはるはるはるは
描かる身には思ゆる人へ。死にし天さざに受くる患思
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

久にうかうか。揺ひて日暮の春の一日を山に遊ぶ
砂山の寝日櫛りに宿舎を以てるかも
うち園遊会さけそめ麗は夢のやうな手をすみせり
雛は強きのかな水無きの高原に芽をさきめり
遠み流る川の遠に鶯の下居長鳴なるかも
よなはるはるはるはるはるはるはるはるは
沙の身にはばかり數へり。わかれは外而に牋席を持ちつ
女子の心は弱い。よかのからほはすまへ。貞じるを
わればばすまへ。思ふ事持つて。胸ひ空へ。時たまにり
ねんこはるはるはるはるはるはるはるはるは
描かる身には思ゆる人へ。死にし天さざに受くる患思
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

久にうかうか。揺ひて日暮の春の一日を山に遊ぶ
砂山の寝日櫛りに宿舎を以てるかも
うち園遊会さけそめ麗は夢のやうな手をすみせり
雛は強きのかな水無きの高原に芽をさきめり
遠み流る川の遠に鶯の下居長鳴なるかも
よなはるはるはるはるはるはるはるはるは
沙の身にはばかり數へり。わかれは外而に牋席を持ちつ
女子の心は弱い。よかのからほはすまへ。貞じるを
わればばすまへ。思ふ事持つて。胸ひ空へ。時たまにり
ねんこはるはるはるはるはるはるはるはるは
描かる身には思ゆる人へ。死にし天さざに受くる患思
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

久にうかうか。揺ひて日暮の春の一日を山に遊ぶ
砂山の寝日櫛りに宿舎を以てるかも
うち園遊会さけそめ麗は夢のやうな手をすみせり
雛は強きのかな水無きの高原に芽をさきめり
遠み流る川の遠に鶯の下居長鳴なるかも
よなはるはるはるはるはるはるはるはるは
沙の身にはばかり數へり。わかれは外而に牋席を持ちつ
女子の心は弱い。よかのからほはすまへ。貞じるを
わればばすまへ。思ふ事持つて。胸ひ空へ。時たまにり
ねんこはるはるはるはるはるはるはるはるは
描かる身には思ゆる人へ。死にし天さざに受くる患思
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

久にうかうか。揺ひて日暮の春の一日を山に遊ぶ
砂山の寝日櫛りに宿舎を以てるかも
うち園遊会さけそめ麗は夢のやうな手をすみせり
雛は強きのかな水無きの高原に芽をさきめり
遠み流る川の遠に鶯の下居長鳴なるかも
よなはるはるはるはるはるはるはるはるは
沙の身にはばかり數へり。わかれは外而に牋席を持ちつ
女子の心は弱い。よかのからほはすまへ。貞じるを
わればばすまへ。思ふ事持つて。胸ひ空へ。時たまにり
ねんこはるはるはるはるはるはるはるはるは
描かる身には思ゆる人へ。死にし天さざに受くる患思
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

久にうかうか。揺ひて日暮の春の一日を山に遊ぶ
砂山の寝日櫛りに宿舎を以てるかも
うち園遊会さけそめ麗は夢のやうな手をすみせり
雛は強きのかな水無きの高原に芽をさきめり
遠み流る川の遠に鶯の下居長鳴なるかも
よなはるはるはるはるはるはるはるはるは
沙の身にはばかり數へり。わかれは外而に牋席を持ちつ
女子の心は弱い。よかのからほはすまへ。貞じるを
わればばすまへ。思ふ事持つて。胸ひ空へ。時たまにり
ねんこはるはるはるはるはるはるはるはるは
描かる身には思ゆる人へ。死にし天さざに受くる患思
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

久にうかうか。揺ひて日暮の春の一日を山に遊ぶ
砂山の寝日櫛りに宿舎を以てるかも
うち園遊会さけそめ麗は夢のやうな手をすみせり
雛は強きのかな水無きの高原に芽をさきめり
遠み流る川の遠に鶯の下居長鳴なるかも
よなはるはるはるはるはるはるはるはるは
沙の身にはばかり數へり。わかれは外而に牋席を持ちつ
女子の心は弱い。よかのからほはすまへ。貞じるを
わればばすまへ。思ふ事持つて。胸ひ空へ。時たまにり
ねんこはるはるはるはるはるはるはるはるは
描かる身には思ゆる人へ。死にし天さざに受くる患思
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

久にうかうか。揺ひて日暮の春の一日を山に遊ぶ
砂山の寝日櫛りに宿舎を以てるかも
うち園遊会さけそめ麗は夢のやうな手をすみせり
雛は強きのかな水無きの高原に芽をさきめり
遠み流る川の遠に鶯の下居長鳴なるかも
よなはるはるはるはるはるはるはるはるは
沙の身にはばかり數へり。わかれは外而に牋席を持ちつ
女子の心は弱い。よかのからほはすまへ。貞じるを
わればばすまへ。思ふ事持つて。胸ひ空へ。時たまにり
ねんこはるはるはるはるはるはるはるはるは
描かる身には思ゆる人へ。死にし天さざに受くる患思
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

久にうかうか。揺ひて日暮の春の一日を山に遊ぶ
砂山の寝日櫛りに宿舎を以てるかも
うち園遊会さけそめ麗は夢のやうな手をすみせり
雛は強きのかな水無きの高原に芽をさきめり
遠み流る川の遠に鶯の下居長鳴なるかも
よなはるはるはるはるはるはるはるはるは
沙の身にはばかり數へり。わかれは外而に牋席を持ちつ
女子の心は弱い。よかのからほはすまへ。貞じるを
わればばすまへ。思ふ事持つて。胸ひ空へ。時たまにり
ねんこはるはるはるはるはるはるはるはるは
描かる身には思ゆる人へ。死にし天さざに受くる患思
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

久にうかうか。揺ひて日暮の春の一日を山に遊ぶ
砂山の寝日櫛りに宿舎を以てるかも
うち園遊会さけそめ麗は夢のやうな手をすみせり
雛は強きのかな水無きの高原に芽をさきめり
遠み流る川の遠に鶯の下居長鳴なるかも
よなはるはるはるはるはるはるはるはるは
沙の身にはばかり數へり。わかれは外而に牋席を持ちつ
女子の心は弱い。よかのからほはすまへ。貞じるを
わればばすまへ。思ふ事持つて。胸ひ空へ。時たまにり
ねんこはるはるはるはるはるはるはるはるは
描かる身には思ゆる人へ。死にし天さざに受くる患思
春の日の長きも忘れせよ。あかね飴めに公園に暮しつ
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
咲きほる花を以てるればならぬ小鳥の音に來聞く
この光

ソロ（ト）人語

久にうかうか。揺ひて日暮の春の一日を山に遊ぶ
砂山の寝日櫛りに宿舎を以てるかも
うち園遊会さけそめ麗は夢のやうな手をすみせり
雛は強きのかな水無きの高原に芽をさきめり
遠み流る川の遠に鶯の下居